



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

http://ken-nonoyama.com/ mail@ken-nonoyama.com

No.573 2020.9.16

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**



コロナ禍の下で 暮らしを守る支援を

北区議会第3回定例会 日本共産党・福島宏紀議員が代表質問

14日に開会した北区議会第3回定例会。日本共産党北区議員団は、初日に福島宏紀議員が代表質問、2日目の個人質問には野口まさと議員、せいの恵子議員が立ち、コロナ禍の下で区民の暮らしを守る提案を行いました。(のの山けん)

新型コロナ対策のうち、PCR検査の拡充に関して福島区議は、「すでに千代田区や世田谷区が踏み出しているように、医療機関、介護施設、福祉施設、保育園・幼稚園、学校の職員等を対象にした社会的検査の実施を」と求めました。

これに対し花川区長は、東京都が高齢者・障害者施設での職員・入所者のスクリーニング検査経費を支援する方針を打ち出したことに加え、区として「介護・障害サービス事業者の新規入所者や、感

染者が発生した事業所において、当該感染者と接触した従事者等を濃厚接触者に加えて行政検査として検査する」補正予算を計上したと答弁。さらに、保育園・幼稚園、学校の職員についても、「(検査を拡充するよう指示した)国の通知等をふまえ対応していく」と答えました。

また、安倍首相から「生活保護はためらわず申請を」との答弁を引き出した国会での田村智子参院議員の質疑を紹介し、制度の積極的活用を求めました。

菅新政権が発足 安倍政治に代わる 新しい政治こそ

自民党新総裁に菅義偉氏が選出されたことを受け、そねはじめ都議とともに街頭宣伝。国民の「アベノミクスは見直すべき」、「改憲は引き継ぐべきではない」との声を紹介し、「安倍政治に代わる新しい政治を」と訴えました。(のの山けん)



そねはじめ都議(左)と街頭宣伝 =15日、赤羽駅東口

いったい
誰のための
まちづくり？

赤羽・十条駅前で進み始める 市街地再開発

15日の区議会本会議で、日本共産党の野口まさと議員が赤羽・十条駅前で推し進められている市街地再開発計画について質疑。莫大な税金を投入する事業の問題点が浮き彫りになりました。(のの山けん)

災害への脆弱性、周囲への影響が懸念される

超高層マンションを誘導

災害にも脆弱で、日影や風害をもたらす超高層マンション。赤羽の計画では1戸あたり8000万円もの価格で、平均的な世帯では手ができません。区は住戸の必要性を明らかにせず、「(再開発では)緩和された容積を活用するため、高層化するしくみ」とのべるだけです。



赤羽の再開発ビル(イメージ図)

地権者1/3は置き去り、周囲への説明も尽くされず

住民合意は後景に

再開発は地権者の3分の2が賛同すれば、残りが反対しても発動。さらに合意形成が図られるまでは、テナントや周辺住民にも十分な説明が行われません。都市計画決定されれば後戻りができず、住民合意は後景に追いやられます。

赤羽(第一地区)で57億円、十条で230億円

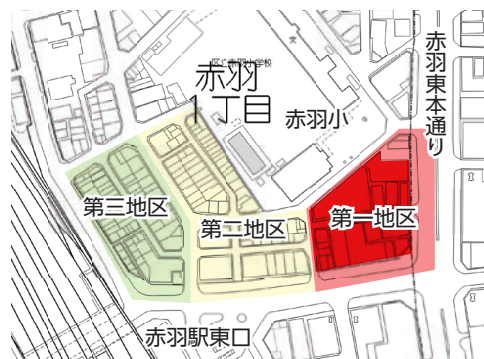
莫大な税金を投入

再開発は、バブル期の事業破綻の経験を踏まえ、資金力を持つ不動産デベロッパーが再開発組合員として加わり、利益を確保しながら帳尻を合わせるしくみに変容。赤羽の計画には約57億円、十条には約230億円もの税金が投入されますが、その中で企業は、最大限のもうけを追求します。

「住民が主人公」のまちづくりに

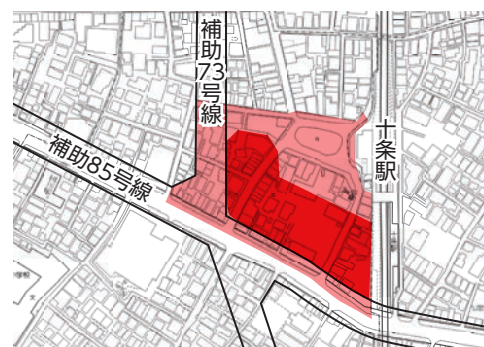
赤羽では都市計画決定された第一地区に続き、第二・第三地区の計画も動き始めています。再開発の手法が必要かどうかも含め、まちづくりは徹底した住民合意で進めることが不可欠です。

赤羽一丁目市街地再開発計画



第一地区の施設計画は、敷地面積約2890㎡、地上26階(約110m)。住宅、店舗、地下駐輪場

十条駅西口市街地再開発計画



敷地面積約7071㎡、地上39階(約146m)。住宅、店舗、公共施設、地下駐輪場